



なにわ
『浪花のまちを
めぐってみよう』

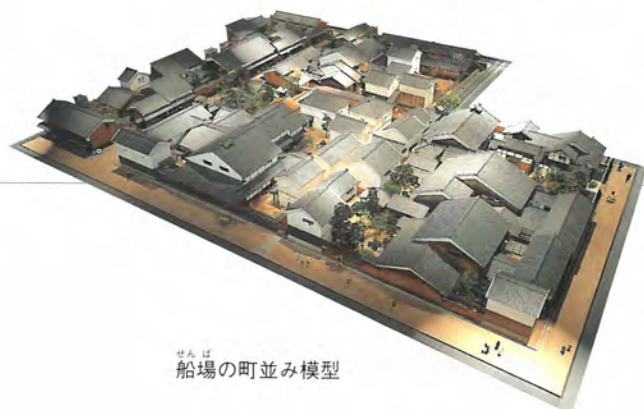
9 階

ようこそ天下の台所へ にぎわい栄える浪花のまち



ほんがんじ
大坂本願寺模型

この階では、まず中世（室町から織豊時代）の大坂のようすが紹介されています。この当時、交通の要所として発達した大坂にはお寺や神社を中心とする町がつくられていきました。



せんば
船場の町並み模型

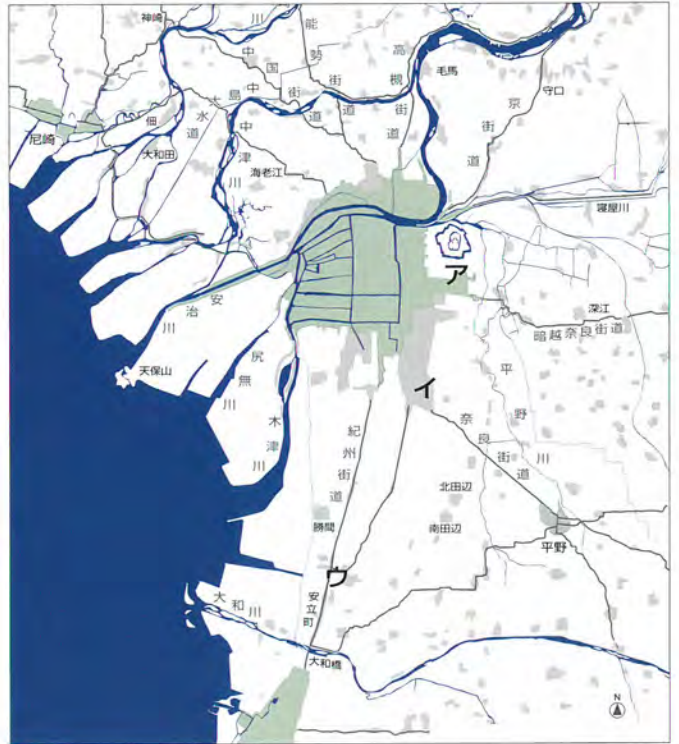
また、この階では、近世（江戸時代）の大坂のようすも紹介されています。日本の商工業の中心として、また、歌舞伎や人形浄瑠璃などの芝居が上演された町人文化の中心としての大坂（浪花）の町をめぐってみましょう。

9階 中世近世フロアへ行く前に調べておこう!

「9階事前学習用ワークシート」

⇒中世の大坂

Q1 1533年、浄土真宗の大坂本願寺が成立し、ここでは商人や職人など、1万人をこえる人々が暮らし、寺内町として発展しました。(しかし、1580年には織田信長と11年にわたる戦いの末、焼失)この大坂本願寺があった場所を地図中ア～ウより選びましょう。()



Q2 この後大坂は、天下を統一したある人物によって、天下人の城下町として発展しました。さて、その人物とは誰でしょう?



その人物が好んで用いた金箔瓦

〔ア. 織田信長 イ. 豊臣秀吉 ウ. 徳川家康〕

⇒近世の大坂

Q3 江戸時代に入ると大坂は「天下の台所」と呼ばれ、流通や経済の中心地になっていきますが、その理由を考えてみましょう。

Q4 江戸時代の大坂は、豊かな富を背景に町人たちによって学問や芸術、芸能などの文化が生まれ、発展していきました。次の①②の資料と関わりのある人物を次から選びましょう。(複数回答可)



日本永代蔵



文楽人形のかしら

〔ア. 松尾芭蕉 イ. 近松門左衛門 ウ. 十返舎一九 エ. 井原西鶴 オ. 滝沢馬琴〕

解答と解説

Q1の答え ア

⇒解説

秀吉は、大坂本願寺跡に大坂城を築城する。また、秀吉が築城した大坂城は現在よりももっと下にあった。

地図中イは四天王寺、ウは住吉社を示す。

四天王寺は、平安時代以降、浄土信仰が盛んになるとともに、多くの人々の信仰を集めた。寺の西側には間近に海が広がっており、門前には市がたち、町場として賑わった。

住吉社は、古くから海神・歌神として広く人々の崇敬を集めた神社。江戸時代には、海を前にした美しい風景によって絶好の行楽地となった。



地層の剥ぎ取り（三の丸範囲内）

Q2の答え イ

⇒解説

豊臣秀吉は、大坂城の三の丸普請にともなう船場の開発など、城域を拡大する中で、現在につづく町割の基礎を築いていった。大坂夏の陣によって町が焼失した後、大坂のまちは、徳川氏によって復興をとげ、「天下の台所」へと発展していった。

Q3の答え

(例) 大坂は、大坂城の城下町として多くの商人・職人が集住したこと。また、各藩の蔵屋敷が集中し、各藩から産出される米や特産物が集まり、大坂で販売されたこと。

大坂は、多くの堀割が開削され、水運が発達していたこと。

⇒解説

江戸時代の大坂の玄関口のひとつ、安治川口の港には、日本各地からの年貢米や特産物を運ぶ船や大坂やその周辺で作られた木綿・酒などの加工品を載せた船で賑わい、そのさまは、「出船千艘、入船千艘」といわれた。



摂津名所図会（安治川橋付近のようす）

Q4の答え ① エ ② イ (とエ)

⇒解説



井原西鶴



近松門左衛門

井原西鶴は、大坂の町人で、浮世草子と呼ばれる小説を書いた。「日本永代蔵」は西鶴の代表作で、財をなした町人たちの物語30話が収録されている。

近松門左衛門は、人形浄瑠璃（文楽）や歌舞伎の台本を書き、義理と人情の板ばさみに悩む人間の姿を美しく描いた。代表作は、「曾根崎心中」など。西鶴も浄瑠璃の台本を書いたので、②は、エも正解。

9階 中世近世フロアについて考えよう! ☆

「9階ワークシート」
☆

まちめぐり案内人の「浪花屋寅之助」さんといっしょに
大坂のまちをめぐってみよう!
(寅之助さんのお話にヒントがあるぞ!?)



浪花屋寅之助

→堂島米市

Q1 堂島米市では、各藩の蔵屋敷が発行した米切手(※)を売買していました。さてジオラマの中には、取引をしている人々にまじって、彼らに水をかけている人がいますよ! この人はいったい何をしているのでしょうか?

(※) 米切手…蔵屋敷に持っていけば、実際の米と交換してもらえるというもの。

- ア. 交渉が過熱しているので、頭を冷やすために水をかけている。
- イ. 時間を過ぎても取引を止めない者に、水をかけて取引を終了させている。
- ウ. 人々の行き来が多く、ほこりっぽいので、衛生上、水をまいている。



堂島米市ジオラマより水打人のようす

→新清水寺

Q2 新清水寺から玉造稻荷にかけての高台(上町台地)は、自然が豊かで、名所も多く、庶民の安らぎの場としてにぎわっていました。さて、ジオラマの中に、水を売っている人の姿が見えますよ! 今では、コンビニなどで、水が売られているのをよく見かけますが、江戸時代もそうだったのかな?

- ア. お寺から出る湧き水は、観音様のご利益があるということで人気があった。
- イ. 高台から出る湧き水は、冷水として有名で、暑い夏には大変人気があった。
- ウ. 他の場所の井戸水は、塩気が多くて飲用には適さなかったので人気があった。



新清水寺ジオラマより、水売り

→船場の町並み

Q3 船場の町並みを復元した模型の中の「千草屋」はどのような商売をしていましたか?
[]

Q4 町人によって開かれた学問所をさがし、その名前を答えましょう。
[]

解答と解説

Q1の答え イ

⇒解説

米市では、米の仲買人同士が米切手を売買していた。この米切手を蔵屋敷に持っていくと現物の米と交換できた。また、仲買人たちは架空の帳簿上での取引を行って、相場の変動による危険を回避した。



旗振り



茶店や煮売り船

Q2の答え ウ

⇒解説

大坂市中の井戸水のほとんどは、塩分を多く含み、川の水を水売りから買って飲んでいました。新清水寺付近は市中でもわき水が多く、名水として知られていた。増井清水もその一つ。



増井清水

Q3の答え 両替商

⇒解説

両替商とは、はじめは手数料をとって貨幣の交換をすることを仕事としていたが、次第に貸付や預金などもおこない、今日の銀行のような仕事をするようになった。また、大名貸しを行ったり、蔵屋敷の蔵元・掛屋などをつとめ、巨大な富を築くものもいた。



千草屋 (模型)

Q4の答え かいとくどう 懐徳堂

⇒解説

懐徳堂は、享保9年（1724）に大坂の五人の町人が中心となって開いた学問所である。教科書を持たない人にも聴講を許可し、講義中でも用事がある場合には自由に退席することを認めていた。

町人の学問所である懐徳堂は、富永仲基や山片蟠桃など優れた学者を輩出した。



懐徳堂 (模型)

9階 中世近世フロアについて考えよう! ☆☆

【9階ワークシート ☆☆☆】

蔵屋敷

Q1 大坂は「天下の台所」として、日本各地から年貢米や特産物が運びこまれていました。大名や旗本たちは、年貢米や特産物販売のため、蔵屋敷と呼ばれる倉庫を堂島川・土佐堀川周辺に数多くつくりました。さて、全国の名大(藩)の約300藩のうち、多いときでおよそいくつの藩が大坂に蔵屋敷をもっていたでしょう?

[ア. 約30 イ. 約80 ウ. 約130]

難波橋

Q2 大川にかけられた難波橋は、幕府が管理した公儀橋のひとつであり、(①)橋・(②)橋とあわせて、『なにわの三大橋』といわれました。また、公儀橋に対して、安治川橋のように橋の周辺の町が管理した橋を(③)と言います。()内の空欄をうめましょう。



住友銅吹所

Q3 「銅吹所」とは、銅を純度99%まで精錬する工場のことで、大坂には多くの銅吹所が集まっており、その中でも最大だったのが、長堀の住友銅吹所でした。銅は江戸時代の重要な輸出品でしたが、住友銅吹所で主に輸出用に精錬された銅を、何銅と言ったのでしょうか?

[ア. 棹銅 イ. 丁銅 ウ. 丸銅]



住友銅吹所の模型

道頓堀角の芝居

Q4 大坂は江戸や京都とならぶ芝居興行の中心地でした。道頓堀には、角の芝居・中の芝居という大芝居の劇場の他、浜芝居とよばれた中小の劇場や芝居茶屋がならび、歌舞伎や人形浄瑠璃などが上演されました。

大坂の芝居小屋は、「せり」や「廻り舞台」など、全国にさがかけて、いろいろな舞台装置を考えだしました。さて、これらの装置がある舞台下のことを何というでしょう?

[ア. さじき イ. ならく ウ. はなみち]



角の芝居の模型

解答と解説

Q1の答え ウ

⇒解説

大坂に蔵屋敷を設置していたのは、広島藩などの西国の大名が多く、各藩の年貢米や特産物は瀬戸内海を通じて大坂に運ばれていた。



広島藩蔵屋敷の模型

Q2の答え ① ^{てんまぼし}天満橋 ② ^{てんじんぼし}天神橋 ③ 町橋

⇒解説

難波橋は、夕涼みの場所として知られ、名所の一つであった。橋の北側には対馬藩などの蔵屋敷があり、南側には適塾ていじゅくがあった。

Q3の答え ア

⇒解説

江戸時代、銅は鎖国下の重要な輸出品で、その輸出は幕府の統制を受けていた。輸出用に棹銅せうどうがつくられ、国内用には丸銅・丁銅ていどうがつくられていた。



Q4の答え イ

⇒解説

- 棧敷さじき 上等の観客席
- 奈落ならく 舞台と花道の床下のこと
- 花道はなみち 役者が登場や退場の際に使用する舞台の延長。



角の芝居の内部

9

階 中世近世フロアについて考えよう! ☆☆☆

【9階ワークシート ☆☆☆】

⇒船場の町並み

Q 大坂の商業の中心・船場は、人々の暮らしの場でもありました。

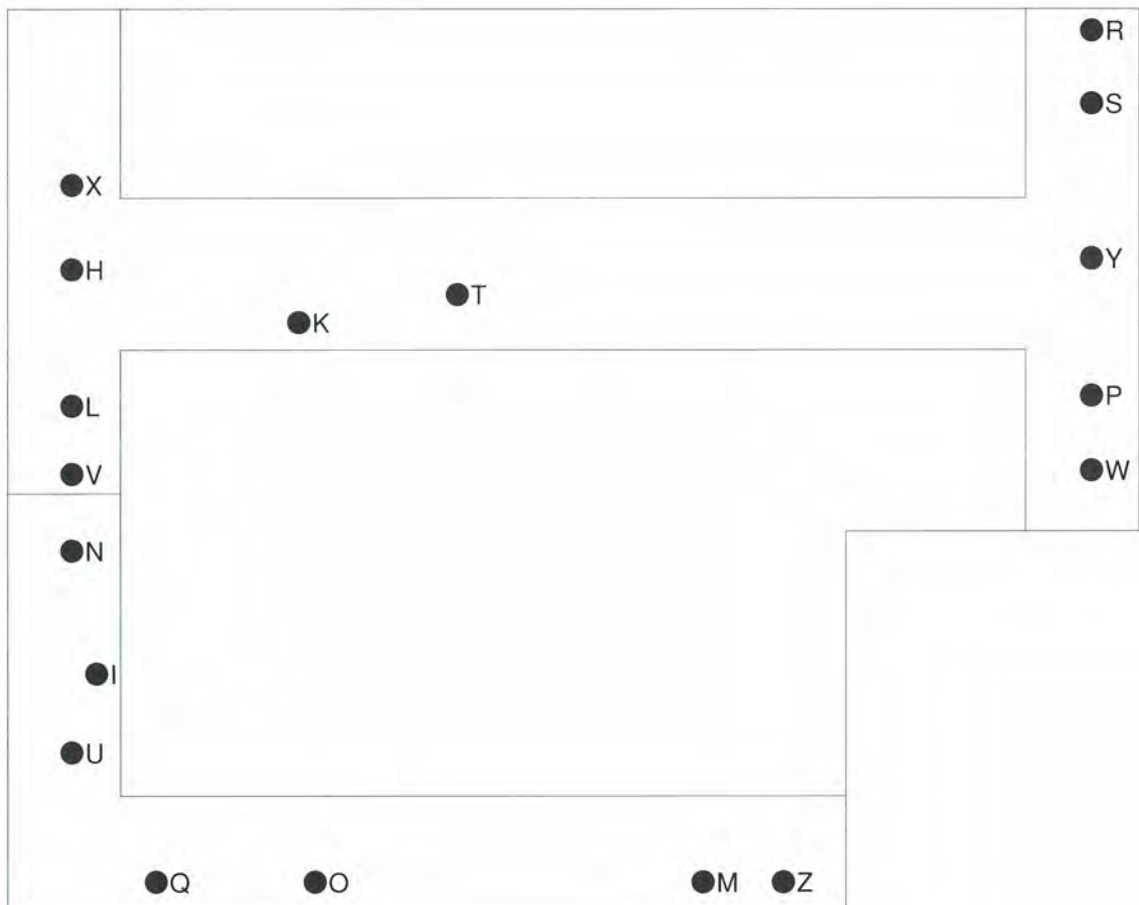
船場の町並み復元模型の上の映像で紹介される「船場のまちを歩き交う人々」について、①～⑦の人たちは町並みの中のどこにいますか？

下の図のH～Zから順に見つけてみよう！

(①～⑦の順にならべると、1つのことばになりますよ)

①髪結い	②搗米屋	③青物商	④貸本屋	⑤雪路直し	⑥岩おこし売り	⑦福沢諭吉
------	------	------	------	-------	---------	-------

船場の町並み平面図



解答と解説

Qの答え

①髪結い	②搗米屋	③青物商	④貸本屋	⑤雪踏直し	⑥岩おこし売り	⑦福沢諭吉
H	I	S	T	O	R	Y



<船場のまちを行き交う人々>

- ①髪結い……………髪を結うことをなりわいとする人
- ②搗米屋……………家々をまわり、路上で精米をする人
- ③青物商……………青物（野菜のこと）を売り歩く商人
- ④貸本屋……………本を貸す業者。本を背負って客の家をまわり、配本・回収、集金を行う。
- ⑤雪踏直し……………雪踏（裏に皮をはった草履）の修理を職業とする人。
- ⑥岩おこし売り…岩おこしという菓子を売り歩く商人
- ⑦福沢諭吉……………中津藩（大分県）の武士の子として大坂で生まれる。適塾で洋学を学び、欧米に留学。帰国後、慶応義塾を設立し、欧米思想の紹介と教育につとめた。明治5年（1872）に『学問のすすめ』を出版。

中世近世フロアの問題作成を担当して

中世の町並みや大坂本願寺、秀吉のまちづくりをすぎると、そこは江戸時代の大坂。木の香が漂う安治川橋近くには、停泊する巨大な千石船の姿が見られます。威勢良く商品売り捌く商人の姿や懸命に銅を精錬する職人のようすに、活気あふれる「天下の台所」大坂を体感できることでしょう。

精巧に復元された船場の町並みや道頓堀の芝居小屋では、随所に細かな工夫が施されています。町を歩き交う人々の衣装や持ち物に当時の暮らしのようすがうかがえます。また、舞台下の大仕掛けや劇場前の華やかな看板・幟（のぼり）に花開く町人文化のようすを感じてください。

さあ、にぎわい栄える浪花のまちをワークシート片手にめぐってみましょう。各コーナーの映像・解説に耳を傾け、数々のジオラマや模型・実物資料に接する中で、きっと新たな発見や驚きがあるはず。探す楽しさ・見つける喜びを味わいながら、当時の人々の営みを学びましょう。そして、さらに深く追究する気持ちがめばえてもらえば幸いです。

（大阪市立勝山中学校 竹内 直樹）

中世近世フロアの制作裏話 — 博物館より —

中世コーナーでは、中世都市の町並みや大坂本願寺模型によって、中世末期の「大坂本願寺の時代」をヴィジュアルに示しました。続いて「秀吉のまちづくり」・大坂城三の丸跡地の地層が、当時の興亡を物語ります。次に進むと江戸時代。江戸時代後期の町並みを、名所めぐりの感覚で体感できるゾーンです。安治川橋、難波橋を1/2.7で復元。船の輻輳する安治川湊、活況を呈する堂島米市や天満青物市、上町台地の景観を示す新清水寺などは、昔ながらの「立版古」手法を用いた「積層ジオラマ」で示しました。さらに広島藩蔵屋敷、住友銅吹所、船場の町並みを模型（蔵屋敷1/50、その他1/20）で復元しました。